

アンテナを高く張る

あなたがそこに ただいるだけで その場の空気が あかるくなる
あなたがそこに ただいるだけで みんなのところが やすらぐ
そんなあなたに わたしもなりたい

これは、相田みつをさんの詩です。この詩に触れるたびに、私は恩師を思い出します。私は、中学3年生の時、先生に出会いました。いつも優しい笑顔と温かな言葉で生徒の輪の中で行動する先生、悪いことをしたときは真剣に叱り、悩みがあるときはとことん相談に乗り、生徒のことを真剣に考える先生は、いつも生徒から信頼されていました。私は、いつかN先生のような先生になりたいと思うようになりました。

そんなN先生に再会したのは、教師になって13年目の年でした。同じ職場で、勤務することになりました。20年ぶりに再会した先生は、以前と変わらぬ様子で、生徒たちや先生方の輪の中で過ごしておられました。楽しい授業、自らラケットを持ち、生徒と共に汗を流す部活動、どんな時も一人一人の生徒に寄り添い、分かる楽しさやできる喜びを味わえるようにしておられました。また、職員室でも、「暗い表情してるけど、何かあった?」「最近、がんばっているね。」などと、教職員に声をかけておられました。

私は一度、N先生に「どうしたら先生のようになれますか。」と聞いたことがあります。すると、先生からは、「自分は何もしておらんよ。ただ、アンテナを高く張って、自分にできることをしているだけ。」という返事が返ってきました。「アンテナを高く張る」、私は、この言葉を聴いたとき、まさしく先生は、多くの生徒や先生方との触れ合いの中で、ただ時間を過ごしているのではなく、一人一人が発している声に耳を傾け、表情を読み取り、必要としていくことに応えておられたのだということを知りました。だからこそ、N先生の周りは、いつも明るく、温かな空気で包まれていたのだと感じました。

あれから10年、今、私はアンテナを高く張り、周りの人の表情や気持ちを敏感に察知し、誠実に行動することができるような人間を目指し、教職の道を歩んでいます。